

人生、スキーからも学び

吉原 秀東

2020年1月某日、約20年振りにスキーを再開した。67歳の冬だった。

何を思い立ったのか。

時間が有って（持て余しではなく）、経済的に可能で（費用は捻出できる）、人生老い先が見え始めた頃に、自分の得意とすることをやり残さないでおこう。これが尤もらしい理由か。自由人と言えれば聞こえが良いが、一種のヒマつぶし、かもしれない。

兎にも角にも、雪上滑走を再開した。場所は奥志賀高原スキー場。大学の同級生の伝手で、Sスキースクールに入校した。数あるコースの中で選んだのは「シニアレーシングコース」。なんと威勢の良いネーミングか。

古希に手が届く齢で、殊更タイム競争の腕を磨こうとは思わない。スキー競技の大会を目指そうとの気は露ほどもない。

では何故、レーシングなのか。

同級生の紹介によると、レーシング即ちポール滑走を始める前段として、基本の基を徹底して鍛える、とのこと。約20年のブランクが有る身にはうってつけであった。真っすぐ滑り、必要なところで曲がり、必要なタイミングで止まる、そして、絶対に転ばない。これが基本の基。

自分は、基本動作の徹底した鍛錬に大いに興味を持った。この基本の確認は車の運転に通じるところはないか？走って、曲がって、止まって、事故は起こさない。自分でハンドルを握って車を運転し、時に高速を走って旅行もする実生活上の基礎的動作だ。

レッスン中のコーチの言葉にも思い当たるところが沢山あった。滑走を開始する「ゴー」の青信号。「進め」ではなく「進んでも良い」。ゲレンデでは、上から猛スピードでやって来る違反者多数。衝突事故には要注意。吹雪やガスのせいで、視界が悪くて良く見えない時、不安を感じ少しでも迷ったら「止める」勇氣。

更に、レッスンでは、やる気、元気、転ばない、が大前提だ。これらは、生活の場面でも全く一緒。前向きに考えて、肯定的に生きて、転倒はしない。山から下りて、地上でも教えを实践している。